

日本語の文における接続助詞「から」と「ので」の意味用法分析

アリ・プラバンダリ

0942003



日本文学科

文学部

マラナタキリスト大学

バンドン

2013

序論

接続助詞は接続する働きをもつ助詞である。接続助詞には次のようなものがあり、ば、と、ても、けれども、のに、が、から、ので、し、て、たら、ながら、である。「から」と「ので」は原因と理由に使われる接続助詞で、この接続助詞はインドネシア語では *karena*、*oleh karena itu*、*sebab* となる。インドネシア語では意味が似ているが、実は異なる状況に使われるので、「から」と「ので」は異なる意味がある。

Tomita Takayuki (1993 : 107) によると、「ので」は「原因・理由」を表す。原因・理由を表す助詞には、ほか、に次の項で取り上げた「から」があるが、「ので」と「から」の使用は一般の社会生活ではかなり「ゆれ」ている。しかし、文法的には「ので」は現在あるいは過去の事実に関して、その原因・理由を述べる場合に使われ、「から」は話し手の意志や考えを言う場合にその理由・根拠を述べるときに使われる」と説明されている。

同じ意味であるため、インドネシア語を母語とする学習者の日本語学習を困難なものとしてしまう。この論文ではこの二つの接続助詞を置換することで意味に変化が生じるのかを見ていく。

本論

ここでは、「から」と「ので」を統語論と意味論で解析する。

1.a (31) 何年もいたら体がなまっちゃうだろうから、出たときのために運動をしておかないと。(PTT11, 2008 : 125)

この文で「から」が接続助詞として用いられており、インドネシア語では 'karena' となる。「から」を「だろう」の後ろにつけることで、話し手の推測を表す。

1.b* 何年もいたら体がなまっちゃうだろうので、出たときのために運動を
ておかないと。

「1.b」の文は主観的なので、「ので」は使用ができない。

2.a (42) A: 台本以外で現場に必ず持っていくのは？

B: 特にないんですけど、しいて言うなら、自分の体。

K1

これをもっていないと仕事ができないから（笑）。

K2

(JN01, 2011 : 68)

K2は単文なので、「から」は文末で使い、句を接続しないが、二つの異なる単文の意味を接続するため、「から」はまだ接続助詞として機能している。この文は話し手の考えを表しますので、主観的な文である。

2.b* A: 台本以外で現場に必ず持っていくのは？

B: 特にないんですけど、しいて言うなら、自分の体。

K1

これをもっていないと仕事ができないので（笑）。

K2

文の構造を見ると「ので」は使えるが、この文は非公式の状況に使い、主観的な文なので、「ので」は使用できない。

3.a (53) 初登場なので、まずはZ E : Aの魅力を簡単に教えてください。
(JN01, 2011 : 142)

「3.a」の文で「ので」が二つ句を接続して、名詞の後ろにあるので、「なので」になる。主観的な文で話し手の願いを表すように見えるが、丁寧

系なので、この文では「ので」を使う。さらに分析すれば、この文は一般の人々（雑誌の読者）の意志を表すので、客観的な文である。

3.b* 初登場なから、まずはZ E : Aの魅力を簡単に教えてください。

「3.b」の文で「から」を名詞の後ろに使うと「だから」になるので、「から」を使わない。「から」は一般の人（雑誌の読者）の意志を表すものではなく、話し手の意志を表す。

4.a (60) 定番ですけど、秋、落ち葉の敷き詰められた散策路がとても美しいので、手をつないで歩きたい。(STB, 2013 : 13)

「ので」は形容詞の後ろに使って、インドネシア語では'karena'、'sebab'となる。「定番」と自然のエレメントがあるので、この文は客観的な文である。

4.b* 定番ですけど、秋、落ち葉の敷き詰められた散策路がとても美しいから、手をつないで歩きたい。

「から」は一般の人々の意見を表さないなので、主観的な文である。

結論

「から」と「ので」という接続助詞の意味を分析してみた結果、次の結論を引き出すことができる。「から」は動詞、形容詞、ナ形容詞や名詞の後ろに使用することができる。ナ形容詞と名詞の後ろに使えば、「だから」になる。「から」は複文と単文で使うことができる。一般第二句は他動詞文である。

「ので」は動詞、形容詞、ナ形容詞や名詞の後ろに使用することができる。ナ形容詞と名詞の後ろに使えば、「なので」になる。「ので」は複文や丁寧文や客観的な文だけに使うことができる。一般第二句は自動詩文である。

「から」と「ので」の文の部分とインドネシア語での意味が似ているが、異なる意味論がある。何故なら、この接続助詞は相互に交換することができないからである。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....	i
DAFTAR ISI.....	iv
BAB I: PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	8
1.3 Tujuan Penelitian	8
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Kajian.....	9
1.5 Organisasi Penulisan	10
BAB II: KAJIAN TEORI.....	11
2.1 Sintaksis	11
2.1.1 Definisi Sintaksis	11
a. Frase (句, <i>ku</i>).....	12
b. Klausa (節, <i>setsu</i>).....	13
c. Kalimat (文, <i>bun</i>)	13
2.1.2 Kalimat Majemuk	14
2.2 Semantik	16
2.2.1 Definisi Semantik.....	16
2.2.2 Makna Gramatikal.....	17
2.3 <i>Hinshibunrui</i>	18
2.4 <i>Setsuzokushi</i>	21
2.5 <i>Joshi</i>	22

2.5.1 <i>Setsuzokujoshi</i>	25
2.6 <i>Setsuzokujoshi</i> から	26
2.7 <i>Setsuzokujoshi</i> ので.....	29
2.8 Rangkuman Teori.....	32
BAB III: ANALISIS DATA	33
3.1 Struktur <i>Setsuzokujoshi</i> から	34
3.1.1 ____から、 ____なあ。	34
3.1.2 ____から、 ____な。	36
3.1.3 ____から、 ____ってください。	38
3.1.4 ____から、 ____かもしれんな。	40
3.1.5 ____ だろうから、 ____ておかないと。	41
3.1.6 ____ から、 ____たいなあと。	43
3.1.7 ____ と、 ____から。	45
3.1.8 ____ なんて ____から、 ____と思います。	47
3.1.9 ____ な。 ____から、 ____できない。	49
3.1.10 ____ から、 ____つけ。	51
3.1.11 ____ から、 ____思っ、 ____ました。	53
3.1.12 ____ 。 だから ____。	55
3.2 Struktur <i>Setsuzokujoshi</i> ので.....	57
3.2.1 ____ ので、 ____てください。	57
3.2.2 ____ ので、 ____ですよ。	59

3.2.3 ____ので、 ____わけでもないんです。	61
3.2.4 ____ので、 ____みましょう。	63
3.2.5 ____ ので、 ____たい。	65
3.2.6 ____なるので、 ____ました。	68
3.2.7 _____ し、 _____ので、 _____思いました。	70
3.2.8 ____。 なので ____ほしい！	72
3.3 Rangkuman Analisis	74
BAB IV: SIMPULAN	79
DAFTAR PUSTAKA.....	81
LAMPIRAN I	vii
LAMPIRAN II	xvi
SINOPSIS	xxv
DAFTAR RIWAYAT HIDUP	xxx